

## マルトリートメント

2023. 3. 20

「マルトリートメント」とは、「避けるべき子育て」を指す。1980年代からアメリカなどで広まった表現である。日本語で「不適切な養育」と訳され、子どもの健全な発育を妨げるとされる。子どもを怒鳴ったり、叩いたり、つい感情にまかせて親の気分で子どもへの態度を変えるのがよくない。

最近では、スマートフォンやタブレットを子どもにあてがったり、授乳中にSNSや動画を見たりする親もいるという。スマホやタブレットがわるいわけではないが、親と子の貴重なコミュニケーションの時間がなくなってしまうのはよくない。

WHOのチャイルド・マルトリートメントの定義は、身体、精神、性虐待そしてネグレクトを含む児童虐待をより広く捉えたものである。虐待とは言い切れない大人から子どもへの発達を阻害する行為全般を含めた不適切な養育を意味する。

虐待とはほぼ同義であるが、子どもの心と身体の健全な成長・発達を阻む養育すべてを含んだ呼称である。大人の側に加害の意図があるか否かにかかわらず、また、子どもの目立った傷や精神疾患が見られなくても、行為そのものが不適切であれば、それはマルトリートメントと言える。

マルトリートメントには、しつけと称して脅したり、暴言をぶついたりといった心理的・精神的な虐待も含まれる。報道されるような極端なケースではなくても、日常生活の場面において起こりうるものである。子どもと関わる多くの大人が、自分は児童虐待と無関係だと思って見過ごし、日常的に不適切な接し方で子どもを傷つけてしまっている可能性もある。

マルトリートメントが頻度や強度を増したとき、子どもの脳は部位によって委縮したり、肥大したりするなど、物理的に損傷する。その結果、学習意欲の低下や非行、心の病に結び付く危険性がある。しつけとは、子どもに恐怖を与えることではなく、正しく導くことが目的でなければならない。愛の鞭のつもりが、いつの間にか身体的虐待へとエスカレートしていく危険性を知り、子どもの気持ちに寄り添う必要がある。大人が注意すべきこととして、4つのポイントがある。

- ① 子どもの脳に及ぼす影響を理解し、体罰・暴言による子育てはしない。
- ② 大人と子どもは対等な力関係ではないという前提に立つ。
- ③ 親は、爆発寸前のイライラをクールダウンする。
- ④ 親は、子どもの気持ちと行動を分けて考え、成長を支援する。

人間の子どもは生きていくために、大人の養育を必要とする。その養育には、愛情とぬくもりが必須である。日本人は、よく横文字のカタカナを略して使う傾向がある。このマルトリートメントはどうだろうか。もし“マルトリ”などと略されて使われるようになったら危険である。それだけ浸透したということになる。あるいは、マルトリという言葉が認知され、虐待と同じように世の中の問題として取り上げられるようになったほうがいいのかもわからない。